第5章 テーマ5　平成19年度第2・3回「地域で取り組む環境対策」
ーわたしたちにできる“環境”を考えるー

平成19年10月25日（木）午後2時～4時30分／平成20年1月18日（金）午後2時30分～4時50分

ゲスト

中原区在住　中山育美
川崎市環境局地球温暖化対策担当　広瀬健二

中山　グリーンコンシューマーという概念は、環境に配慮した買い物をする人という意味合いで、川崎市をエコショッピングタウンにしようと活動している。環境に配慮した商品を売る店も増えないと育っていかないので、店と消費者とが協働して増えていくように活動したい。

グループでは、ブレーメン通り商店街での「一店一エコ運動」、エコショッピング・クッキングなども行っている。

環境に関心の高い人にはリーダーとして行動してもらい、とりあえず仕組みがあるのでやっているという人には、その意義をほめてあげることでやる気を起こさせる。関心はあるけれども行動になかなか移せない人には、「楽しい」とか「得する」という情報や仕組みがあるといい。

行動に移して継続するためのポイントは、なぜそれが必要なのか、重要なのかということが納得できる情報があるといい。ペットボトルを分別した後リサイクルしている工場を見学に行くとか、体で体験できることが継続していくことにつながる。

環境というのは一つの切り口であり、小さなことでもできることから継続していくことが大事である。それを企業、行政、ほかの市民グループや隣の人と連携していけることが大事なことであり、課題である。

広瀬　一昨年の8月の平均気温によると、川崎市の中では中原区が一番平均気温が高い。

地球温暖化というのは、二酸化炭素が多くなるということ。二酸化炭素による温室効果で気温が保たれているが、現在多くなりすぎている。

市の温暖化対策地域推進計画では、CO_2の6％削減を目指している。家庭やオフィスで電気やエネルギーの使用をなるべく減らすのと併せて、今は太陽光や風力でエネルギーと作り出すことができる。

温暖化対策には小まめに行動することが大切。省エネの電気製品を買う、ハイブリッドカーに乗るなどして技術を活用することも必要。

エコドライブやごみの収集リサイクル、レジ袋削減などの実例を議論の参考にしてほしい。国際交流センターには共同発電所を設置しているところである。

なお、今年10月、県知事、横浜市長、川崎市長の連名で環境行動協調宣言をし、持続可能な社会の実現に向けて地域の温暖化対策、環境対策に取り組んでいくこととなった。

ビデオ報告

川崎市立上丸子小学校及び川崎市立井田小学校における環境学習
中原区子ども会議における“環境”テーマ
「とどろき水辺の楽校」における取り組み
中原区役所における緑のカーテンの取り組み

上丸子小学校から

- 「多摩川を外から見ていると分からないが、一歩中に入るとものすごい命の輝きがある。それを子どもたちは学習を通して肌で感じている」上丸子小学校　橋本校長

- 「多摩川学習をした子どもたちが、20年後、30年後、自分たちが多摩川の自然、多摩川のきれいさを守っていく、そういう責任が今度は自分たちにもあるんだ、ということを感じてくれれば」上丸子小　橋本校長
- 「彼らが大人になった時に、地域を誇れるものを彼らの心の中で育てていきたい」上丸子小　橋本校長
- 「一緒にやっていて喜んでいる子どもたちの顔を見るのは幸せ。ふるさとにこんなすばらしい川があるっていうことを地域の財産として、一つの学級の取り組みですけど、広がりとして地域に根づくといいですね」ゲストティーチャー・俳優　中本賢
- 「水辺に来ると素直になりますね。子どもは昔も今も変わらない。いい思い出をたくさん作ったと思います」ゲストティーチャー・俳優　中本賢

上丸子小の多摩川学習。４年生は中本賢さんとガサガサ体験をします

井田小の４年生の環境学習。今日は橘リサイクルコミュニティセンターで紙すきと廃油を利用した石けんづくりを体験

井田小学校から

- 「地球を支える行動はまず足元から、そのことが地球を考えることになるんだ、言葉だけでなく実践ができる子になってほしい」井田小学校　新村校長
- 「自分たちだけでなくて地域で頑張っている人を知ること、自分たちも輪の中に入って地球を守る一員になっていくこと、そしてそれを家庭に持ち帰って家庭でもエコに積極的に取り組んでくれることで輪が大きくなっていくこと。少しずつ自分たちにできることを大事にしながら、これからもエコの学習をしていきたい」井田小学校　新村校長

「とどろき水辺の楽校」から

- 「多摩川の持つ自然を次の世代に伝えていくには、今からコツコツとこういう参加している子どもたちにわかってもらわないといけない」鈴木眞智子
- 「一般の市民で多摩川大好き、植物でも鳥でも昆虫でも一生懸命学んでいる人をゲストティーチャーにお願いしている。ボランティアスタッフもほとんど中原の人。地域の人と一緒にやれる、一番ですね」鈴木眞智子

「とどろき水辺の楽校」で川遊びと清掃をして、子どもたちと河原で談笑する鈴木委員。この後、昆虫探しとヤマメのごちそうが待っていました

- 「多摩川をうまく利用して、活用して、そしていつまでも一緒というのがいい」植物博士　酒井昭子
- 「安全管理の芽がある中で、危険も知りつつ体験して自分がどう対処すればいいかが身につけば、子どもたちにとって最高ではないか」ボランティアスタッフ　河村順子
- 「しがらみから開放される場所がそれぞれの心の中に一つずつあればいい。もし、その中の一つに子どもたちが多摩川を選んでくれれば、とてもうれしい」鈴木真智子

会議での意見

●紙コップは１回使うとごみになってしまうが、ある会議で出席者の方がすてきなカップを持参していた。色とりどりのいろいろな形のカップが席の前に並べば、会話も和やかになり、時間内で会議も終わるのではないかと思う。

●環境対策としてできることは一人一人のライフスタイルによって違う。意識して自分ができることをやることが非常に大事だと思う。

●エコということは余り気にしないでふだん生活しているので、今日は自分が何もしていないのだということを感じている。宅地ができるたびに緑が減っている。緑のカーテン事業は、上に伸びていくつる植物を使い、広いスペースを必要とせずに行うことができる。中原区区民会議が中心となって、緑のカーテンを全区にアピールしてはどうか。

●リサイクルよりリユースのほうがコスト的には安い。

●たくさん出た意見を大きく分けると、リユースとリサイクルということだった。物を使わないというような方向にライフスタイルを変えていくやり方もあるのかなと思う。

●正しい知識を得てからのエコロジーが非常に大事だと思う。

●区民会議発のエコ宣言をし、一つ一つの町内会に説明していくとか、いろいろな団体があるので、そういうところで年に１回ぐらい勉強会や説明会をしていければいいと思う。区民会議が中心となり、区役所と一緒になってやっていきたい。

地域での取組

２回の会議では、各委員が取り組むこと、区役所として取り組むことを議論し、「中原区区民会議地球にいいことプロジェクト」として地域や家庭で取り組んでいくこととなりました。

まずは足元からと、会議では、ペットボトルのお茶を廃止、委員はマイボトルを持参しています。

このプロジェクトは、第２期へと継続して、実践活動をさらに区内に広めていきます。

１．委員による取り組み

	取り組み内容
区民会議	①委員による地域での実践活動 ②会議でのペットボトルのお茶を廃止
生冨委員	①患者に薬袋を次回も持って来てもらうようにしたい。
小須田委員	①自宅にコンポストを設置して、堆肥作りを行う。 ②長時間点灯する電球をフィラメントタイプから蛍光灯に替える。
酒井委員	①工場協会事務所でペットボトルキャップの収集を行う。
佐野委員	①家庭でお得な温暖化対策を行う。 ②マイバッグを持参する。 ③マイボトルを持参する。 ④マイ箸を持参する。 ⑤出掛ける時は、徒歩か自転車で。 ⑥地域教育会議で子どもたちにエコについて考えてもらう。

	取り組み内容
鈴木委員	①多摩川クリーンアップ大作戦を実施する。 ②「等々力土手の桜を愛する会」で、桜の木植樹後の維持管理。 ③必要な物を必要なだけ買う（エコショッピング）。 ④ペットボトルキャップの収集
高島委員	①印刷物の裏面の利用、古切手の活用 ②団体の定例会で環境について話し合う。
竹井委員	①環境ドキュメンタリー映画「不都合な真実」の上映会を実施。 ②国際交流センターに太陽光発電設備・市民共同発電所を設置するため、市民に募金を呼び掛ける。
内藤委員	①事業内での食事やおやつに塗り箸を使う。 ②おやつ等での生ゴミは、細かくして学童の畑に肥料として埋める。 ③落ち葉を集めて、自家製の堆肥をつくる。 ④不要となったピアニカ、リコーダー、サッカーボールを海外（エチオピア、カンボジア）へ届ける。 ⑤事業所で学童とペットボトルキャップの収集を行う。 ⑥マイ箸を持参する。
芳賀委員	①節電 ②節水 ③暖房の制限 ④風呂の利用制限 ⑤自家用車の利用を控える。 ⑥ペットボトルキャップの収集に協力する。 ⑦緑のカーテン
原委員	①待機電力の節減 ②チラシなどは、リサイクルとして出す ③洋服の寄附（リユース）
東田委員	①自宅でペットボトルキャップの収集 ②レジ袋の削減 ③自動車の利用を控え、自転車を使用 ④ゴミの分別収集の推進 ⑤消費電力の削減 ⑥両面印刷、裏紙利用、メール利用で紙の節減 ⑦プリンターのインクカートリッジの回収 ⑧洗濯機の使い方の工夫
藤枝委員	①中町連で環境に関する視察研修を行う。
松本委員	①子育てサロンで子どもたちの洋服の着回しを進めたい。 ②子育てサロンでのアンケート調査 ③エコクッキングをする。 ④自宅発エコ宣言をする。

	取り組み内容
水品委員	①暖房の使用を控える。 ②マイバッグ、マイ箸 ③節電 ④電球型蛍光灯の使用 ⑤節水
村上委員	①使用する電池を充電池式に切り替える ②商店街でリユース瓶普及のためのモデル事業実施 ③飛行機でなく、電車を利用
モハッマド委員	①物を大切に使う。 ②リユースを大切にする。
吉房委員	①ペットボトルキャップの収集を町会で実行している。 ②レジ袋の削減を町会ぐるみで行う。 ③エコドライブの推進を町会ぐるみで行う。

ペットボトルキャップ収集についてCATV局の取材を受ける吉房委員。区役所にも平成19年12月から回収箱を置いたところ、4カ月で約500kgのキャップが集まりました。問合せは区内のみならず、逗子や綾瀬などの県内各地、都内、熱海、我孫子と関東一円から連日届きます

内藤委員の経営する学童保育でもキャップの収集を始めました

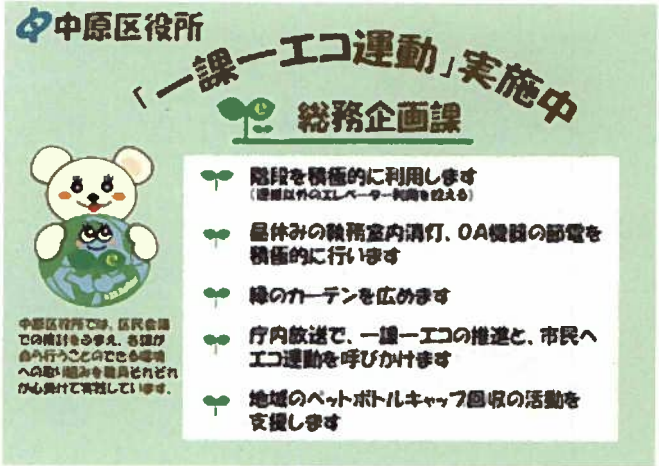
新城商店街におけるガラス瓶のリユースシステムモデル事業。キャンペーンを平成20年2月に開催しました

会議でビンの紹介をする村上委員

2．区役所としての取り組み

1	「中原区役所一課一エコ運動」	
	対象	区役所全職員としての取り組み
	内容	ブレーメン通り商店街の「一店一エコ運動」に習い、各課で業務の特徴を生かした取り組み内容を決めて身近な環境運動に取り組みます。取り組み内容は、掲出用紙に書き込んで、市民にも見えるよう各課カウンターまわりに貼り出します。
	効果	区役所としても区民会議での取り組みを職員全体で推進し、区民会議委員の取り組みとあわせてアピールしていきます。
	時期	平成 20 年 1 月 15 日から実施、第２期区民会議に継続。
2	「ロジーちゃんと緑のカーテン」ゴーヤーの育て方絵本の作成	
	対象	「緑のカーテン」普及啓発事業のため、市民に。特に小学校や保育園、団体向けに。
	内容	今年度試行で実施した緑のカーテンの成長記録及び育て方のコツを写真とイラストで紹介します。次年度予定している「緑のカーテン普及啓発事業」において、ゴーヤーセットを貸与する際に一緒に配布します。また、緑のカーテンを授業で育てる区内の小学４年生に、さらには保育園や子ども文化センター等にも配布を予定しています。
	効果	市民に環境や緑のカーテンに興味を持ってもらうことを目的とします。また、「緑のカーテン普及啓発事業」実施の際のガイドブックとしても活用します。
	時期	今年度中に作成。年度明けに種やプランター等と一緒に配布する。
3	中原区役所エコギャラリー（小学校における環境学習等の展示）	
	対象	来庁した市民
	内容	区役所１階ロビーに、学校での環境学習の成果、エコロジーアートの作品を展示し、来庁した市民に環境について啓発を行います。小学校での環境学習の成果品等を予定しています。
	効果	市民の環境への啓発。
	時期	第１回を平成 20 年３月３日から実施する。
4	地域でのペットボトルキャップ収集の協力	
	対象	区役所全職員及び来庁した市民
	内容	吉房委員が町会で実施しているペットボトルキャップの収集に区役所も協力します。区役所及び保健所に回収ボックスを複数設置します。
	効果	資源の有効活用。市民に対するＰＲ。
	時期	平成 19 年 12 月から実施。
5	平成 20 年度緑のカーテン事業	
	対象	緑のカーテンの普及
	内容	栽培に参加する団体を公募し、町会や市民活動団体、保育園等へゴーヤの種、プランター、土、肥料を貸与します。
	効果	ヒートアイランド対応。省エネ対応。市民に対するＰＲ。
6	区役所職員ネームプレートへの「中原区区民会議地球にいいことプロジェクト」マークの導入	
	対象	中原区役所全職員
	内容	職員のネームプレートにこの取り組みのマーク（イラスト）を導入し、全職員で環境に取り組んでいる姿勢を市民にアピールします。
	効果	職員の環境への取り組みへの意識づけ、及び来庁した市民へのＰＲ。
	時期	平成 20 年１月１５日から実施、第２期区民会議に継続。
7	「中原区区民会議地球にいいことプロジェクト」区ホームページでの PR	
	対象	市民
	内容	このプロジェクトを区の HP で紹介する。
	効果	市民に対する PR.
	時期	平成 20 年度に開設する。

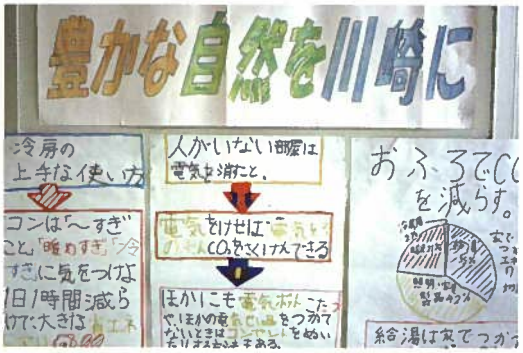
「中原区区民会議地球にいいことプロジェクト」のイメージキャラクター、白くまの「ロジーちゃん」と地球の「エコちゃん」。ロジーちゃんは北極の氷が融けて中原区まで流れつきました。これから地域の取り組みやゴーヤーの絵本などで活躍していきます



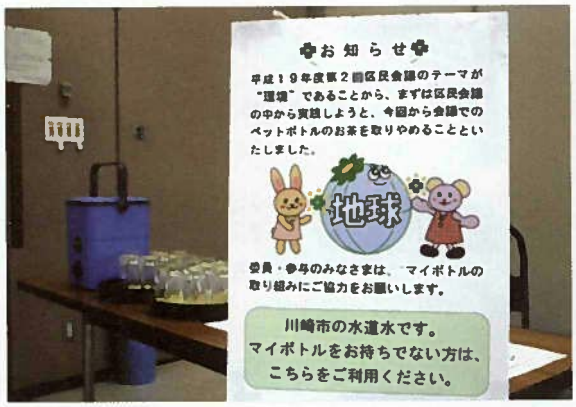
区役所の「一課一エコ運動」。各課で取り組むエコについて、各課窓口に掲示しています

平成20年度、緑のカーテンを広げるため、育て方のコツを絵本にして制作しています。主に区内の小学校、保育園、幼稚園、こども文化センターなどに種などと一緒に配布して緑のカーテンを育ててもらいます。
併せて栽培に参加する団体を公募します

平成19年夏、区役所で育てたゴーヤー、きゅうり、あさがおによる緑のカーテン。20年度は区内保育園、こども文化センターなどの公共施設のほか、栽培に参加する団体を公募して区内に広げます



プロジェクトの一環として区役所1階に平成20年3月に開設した「エコギャラリー」。第1弾として、市立上丸子小学校の環境学習の成果を掲示しています



中原区区民会議では、マイボトル持参。会場入り口には、川崎の水道水を置いています

コラム

<ペットボトルキャップの収集って？>

区民会議で吉房委員からペットボトルキャップを回収し、回収したペットボトルキャップの売り上げで、世界の子どもたちにポリオワクチンを寄付する活動に、地域で協力しているという報告がありました。

中原区役所では、この区民会議での議論を踏まえ、市民活動の支援、資源の有効活用等の観点から、ペットボトルキャップの回収等の活動について、地域の一員でもある区役所に回収ボックスを設け、また市政だより等での広報を行うなどの支援を行っています。

新聞各紙やテレビなどが取り上げたこともあり、区役所には会議後数ヶ月間、毎日問い合わせが続きました。区内のみならず、市内各区、横浜、逗子、茅ヶ崎、綾瀬、さらには都内、熱海、下田、我孫子など関東一円から問合せやキャップの送付がありました。個人だけでなく、区の医師会、町内会、マンション、小学校、大学、企業と団体などでも活動が広がってきています。

平成20年3月末には約500kgを回収しました。

区役所に設置している回収箱